

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

海上保安庁情報誌
Japan Coast Guard Journal

Vol. **64**
2015 AUTUMN

島地域と繋がり、 を守る

【特集】第九管区海上保安本部 佐渡海上保安署



かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **64**

2015 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 噴火後初めてとなる海上からの西之島の調査を実施
- 1 練習船「こじま」世界一周遠洋航海終え無事帰港
沖縄県警との合同企画
- 2 ～わらびんちゃーに対するマリンレジャー安全教室～
- 2 子ども霞が関見学デー
- 3 118番啓発活動! ～大洗港海の月間イベント～
- 3 五島列島沖に眠る旧日本海軍の潜水艦群

[特集]

第九管区海上保安本部 佐渡海上保安署

- 4 地域と繋がり、
島を守る

TOPICS

- 10 佐渡島 エトセトラ
～特集では伝えきれなかった佐渡島をここで～

12 NEWS FLASH

裏表紙

INFORMATION

海上保安庁音楽隊 第22回定期演奏会





測量船「昭洋」は、6月22日から7月9日までの18日間、約40年ぶりに噴火した「西之島」周辺の海底地形等の調査を行いました。

これまでは航空機による上空からの観測のみで、今回の調査は、昭洋及び昭洋搭載船の無人調査艇「マンボウⅡ」を使用した噴火後初めて

となる海上での調査でした。

島周辺海底地形や西之島火山の地下構造等調査で得られたデータは、火山噴火予知連絡会に報告し、火山活動の総理解のための基礎資料として活用されるとともに、海上交通安全の基礎資料となります。

Photo Gravure



噴火後初めてとなる 海上からの西之島の調査を実施



練習船「こじま」は、専攻科実習生32名、国際航海実習課程研修生2名、乗組員43名乗せ、8月6日午前9時零分ころ、多数の教職員及び家族が出迎える中、広島県呉市の海上保安大学校「練習船こじま棧橋」に着岸し、世界一周の遠洋航海を終え、無事帰港しました。

今回の航海は、4月28日呉を出港した後、ホノルル、コスタリカ、ニューヨーク、マルセイ

ユ、モナコ、シンガポールの5ヵ国6都市に寄港し、総日数101日間、総航程約25,200海里(約47,000キロ)に及びました。

各寄港地では各国の海上保安事情を学び、施設見学やレセプション等の交流において国際感覚を磨き、実習生は皆、たくましさを増し、大きく成長して帰港しました。

Photo Gravure



練習船「こじま」 世界一周遠洋航海終え無事帰港



第十一管区海上保安本部（那覇市）では、7月22日に那覇航空基地と沖縄県警航空隊基地において、地元の園児など約50名を対象とした「マリンレジャー安全教室」を行いました。

この安全教室は、本格的な夏のマリンレジャーシーズンを迎え、海難事故の未然防止を図る目的で、第十一管区海上保安本部広報室と沖縄県警が合同で企画したものです。

職員から「海で遊ぶ時の注意事項」などの説明をしたところ、園児全員から「海で遊ぶ時はルールを守ります。」と元気な声で宣誓がありました。

また、園児たちからは安全教室の御礼として、沖縄の伝統芸能である「エイサー」の演舞が披露され、職員一同を笑顔にしました。

※「わらびんちゃー」=こども達

Photo Gravure
3

沖縄県警との合同企画「わらびんちゃー」に対するマリンレジャー安全教室



霞ヶ関において、7月29日から30日の2日間「子ども霞ヶ関見学デー」が行われました。子どもたちを対象に職場見学などを行うことにより、親子のふれあいを深めるほか、子どもたちが広く社会を知る体験活動として、26府省庁が行っている取り

組みです。

海上保安庁が属する国土交通省は、2日間で過去最高の3,000人を超える親子連れが訪れ、農林水産省、文部科学省・文化庁に次ぐ第3位の来場者数となりました。

Photo Gravure
4

子ども霞ヶ関見学デー

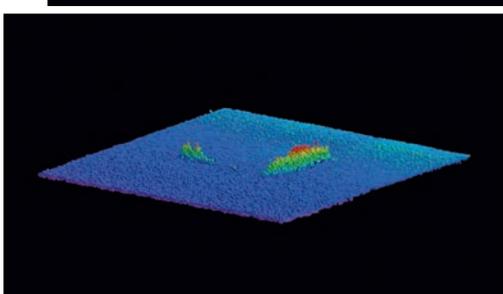
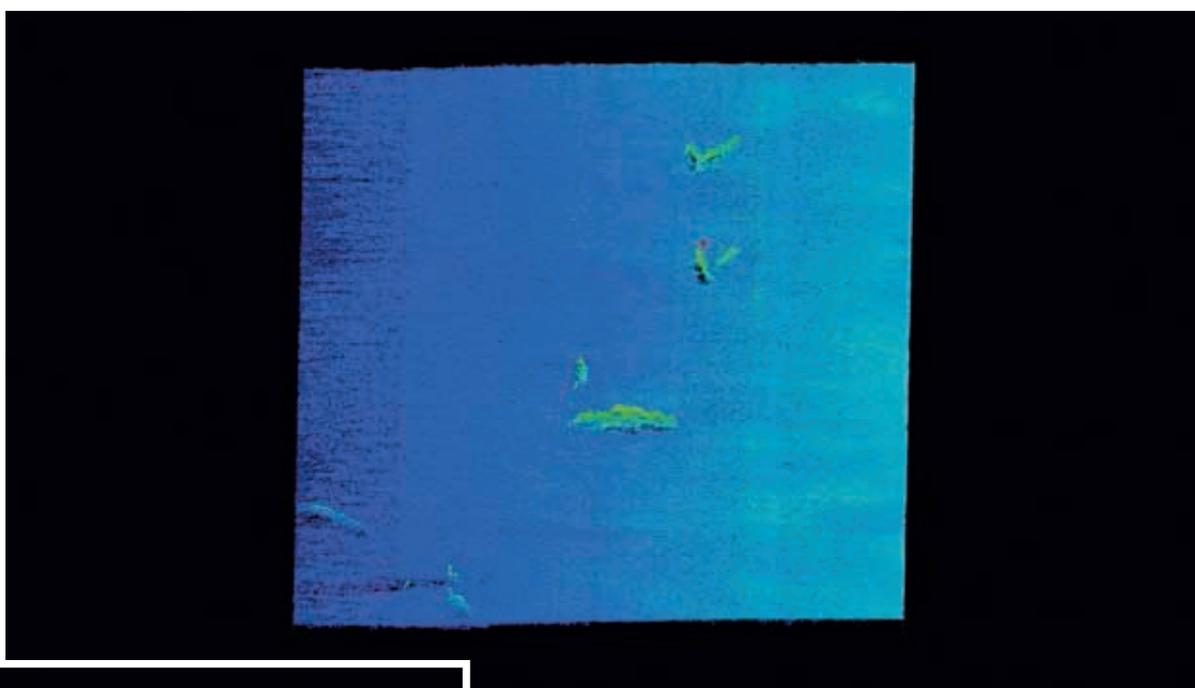
118番啓発活動！
大洗港海の月間イベント



茨城海上保安部は、7月11日から12日の2日間、茨城県大洗町主催の「大洗港海の月間イベント」において、ブースを展示し、来場者に対して業務紹介や制服試着体験等を行いました。

ブース展示においては、茨城県東茨城郡大洗町を舞台に女子高校生が活躍するアニメ「ガールズ&パンツァー」の人気キャラクターの等身大パネルを設置し、大きな注目を集めました。

五島列島沖に眠る
旧日本海軍の潜水艦群



測量船「海洋」は、五島列島福江島の東南東約35km、水深約200mの平坦な海底に、沈没船と考えられる映像多数をマルチビーム音響測深機で捉えました。

これらは東西約4km、南北約2kmの範囲に24個認められ、この海域では、昭和21年4月に米軍により旧日本軍の潜水艦24隻が海没処分されたとの記録があることから、今回発見された多数の沈没船は旧日本海軍の潜水艦であろうと考えられます。

地域と繋がり、 島を守る

第九管区海上保安本部

佐渡海上保安署



冬には荒れた海風の猛威を受け、
夏には多くの観光客やスポーツ愛好者が訪れる佐渡
周囲を巡る海岸線約280キロメートルという
(本邦の島としては、) 沖縄本島に次ぐ広さを持つ
この佐渡島で海の安全と安心を守る
佐渡海上保安署の日々を追った

取材・文/中島 敦 (オンサイト)



佐渡海上保安署管轄区域
指定水域：佐渡島の距岸約10km

新潟県西部、日本海に浮かぶ佐渡島は海岸線約280キロメートル、総面積は約855平方メートル、日本の国土を構成する島の中では本州、北海道、九州、四国、択捉、国後、沖縄本島に次いで8番目の大きさとなる。

この広い佐渡島の周辺海域の安全を守っているのが佐渡海上保安署だ。海上保安庁の発足から2年後となる昭和25年に夷警備救難署として開設され、その後両津警備救難署、両津海上保安署へと改称、平成17年には佐渡海上保安署と改称され現在に至る。当時から変わらぬ敷地には、推定樹齢300年を超える「村雨の松」がそびえており、県の天然記念物に指定されている。

「庁舎は港沿いの土地に引っ越しする予定です。現在の建物は築50年ぐらい経っているのですが、この村雨の松があるた



「限られた人員で島内のあらゆる事案に対応するため、地域に密着し、関係機関との連携を進めています」と語る佐渡海上保安署の北原秀一署長。



昨年12月、両津湾沖に中国漁船20数隻が大量して荒天避泊した際には、1隻1隻立入検査を行った。荒れた海上で、昼過ぎから始まった検査は深夜まで続いた。

め耐震工事を進められないのです」と説明するのは佐渡海上保安署の北原秀一署長だ。改築であれ解体であれ、隣に生える松への影響を考えると建物に手を着けるのは難しい。そもそも庁舎そのものが古いこともあり、現在、港に面した土地への移転を進めている。

佐渡海上保安署は署長を含め職員は15名。陸上が5名、巡視艇「ときくさ」の乗組員には5人5人の2クルー制を取っている。重点を置いている業務としては、領海警備、不審船・テロ対策、密輸・密航事犯対策、海難防止対策、防災対策が挙げられる。

冬場に絶えない 外国船の避泊と漂着

対馬海流の影響を受ける佐渡島は、新潟市周辺と比べると夏は涼しく冬は比較的暖かい。だが、北西の風が吹き付ける



佐渡島への出入口となるフェリー乗り場では、定期的に舷門警戒を実施。乗客の乗り降りだけでなく、船内に不審物がないかも入念に確認していく。



強い北西風に煽られて、特に冬場は漂着船が多くなる。時には船内から遺体が発見されることもあり、継続的な沿岸部の警戒が求められる。



冬場は、特に島の西側海域で時化が続く
 厳しい気象となる。このとき、「ひょうた
 んを薄く延ばしたような地形」から、佐
 渡は恰好の荒天避泊の場となる。北西の
 風が強いときは東側の両津湾沖に多くの
 外国船が身を寄せることになる。その数
 は年間約130隻にも及ぶが、昨年12月
 には20隻を超える中国のイカ釣り漁船が
 大挙して両津湾沖に停泊したため、地元
 でも騒ぎとなり、荒れた海上で立入検査
 を実施した。

「両津と赤泊の沖合いは避難港として緊
 急入域船が入る場所なのですが、あの時
 は地元でも騒ぎになりました。新潟海上
 保安部などからも中国語の通訳官に来て
 もらい、1隻ずつ立入検査しました。土
 地柄、船舶の通行路の近くでもあり、また、
 定置網なども設置されていますから、冬



スポーツイベントに積極的な佐渡市では、毎年オープンウォータースイミング大会や国際トライアスロン大会が開催されている。こういったイベント時は沖合いで巡視船が警戒する。

日々新しい知識や経験を得る ことにやりがいを感じるのです



署員 村山 大喜(25歳)

「保安学校を卒業してから新潟で『えちご』、『ゆきつばさ』と乗り継ぎ、佐渡で1年『ときくさ』に乗りました。今は港長業務や交通の関係と総務を担当しています。近頃は移転に備えて物品関係など引越しの準備も進めているところです。

仕事は担当ごとに分担されているとはいえ、人数が少ないこともあり、何か事案があれば警備救難問わず業務を行うことになり、逆に手助けしてもらうこともあり、佐渡署の仕事はまさに総力戦です。

海難防止講習、海岸清掃、着衣泳教室といった企画をする際、関係機関と行事内容の調整をするなどこれまで経験の無いことに戸惑うこともあり

ますが、関係者の方々から「ありがとう」「為になった」などお礼の言葉をいただくと、やって良かった、次はもっと良いものにしようと自分への励みになり、このような巡視船艇ではやらない様々な業務を通して日々新しい知識や経験を得ることにやりがいを感じます。

今後は、異動で署員が変わる時のためにも、自分の担当外の仕事も積極的に覚え、警備、救難、総務等分野を問わず次長、署員、ときくさの力になりたいです。また、私は警備刑事業務に興味がありますので、佐渡署管内で起きた事案に対して自分ならどうすると考えを持つとともに意見を行い、次の仕事に役立てていければと思います。



今年6月に催された両津えびす祭り。若手海上保安官3名が神輿を担いで地域の期待に応えた。佐渡海上保安署では毎年、島内の小中学校を対象に着衣水泳教室を開催したり、イベントでは紙芝居『海がめマリンの冒険』を披露するなどし、地域の安全や海的环境について啓発している。

場は特にそういった面に注意しなければなりません」と北原署長は説明する。同様に冬場に頻発するのが木造船の漂着だ。年間10件程度発生し、佐渡島全域に木造船やその残骸などが漂着する。中には、船内で遺体が発見されるケースもある。24年11月には大型の木造船が漂着し、船内から5人の遺体が発見されている。このような場合、地元警察も漂着船を発見するとすぐに保安署に連絡を入れてくる。また、地元の人々もこういった現状を認識しており、日頃から目を光らせているという。

「海岸線が280キロメートルもありますから、船で島内の離れた地域に行こうとすると時間がかかります。ですので取り締り等で陸行する場合には、その間、緊急時に備えて船はいつでも出港できるように準備しています。」

長い海岸線をひとつの保安署、1隻の巡視艇、限られた人員で見守るためにも、地元の警察や消防、漁業組合などの連携が必要になる。

「拠点の数、人員の数が違いますから警察や消防の機動力にはおよびません。各所に駐在所がありますし、地元の人も警察や消防により密着しているので連絡が入りやすい。沖合であれば我々の船が必要ですが、沿岸の漂着などであれば警

察や消防がやはり早いのです。また、我々は沿岸警備協力会にも顧問として加わり、毎年の総会に出席して緊密な関係を築いています。常に連絡を取れるようにし、いざ何かあったときに備えています」

離島であるが故、初動は島内で対応しなければならぬ。警察ができること、消防ができること、そして保安署にできること、常に連携を取って初動にあたり、その後は状況に応じて本部や保安部の応援を受けることになる。

地域に寄りそう細やかな見回り

日々の哨戒業務は巡視艇「ときくさ」と車を使つての陸行で行われる。「ときくさ」は全長20メートル、幅4・5メー

刑事の道を進み、国民の安全を守っていきたい



署員 高橋 恭平(26歳)

「私は警備と救難、主に警救業務を担当しています。警備関係では取り締まり等の捜査書類の確認と送致業務になりますが、それ以外では取り締まりの計画を練ったり、「ときくさ」と調整したりと、保安署と「ときくさ」の計画と調整を行っています。救難業務に関しては、佐渡では毎年オープンウォータースイミングやトライアスロンの大会が開催されるので、その警戒実施計画を立てています。こういった大会は参加人数も多く、事故の際には迅速に救助できる体制が必要です。運営する方には安全に大会を運営できるような警戒態勢を整えるよう、常に働きかけています。

仕事は充実していますし、自分自身も興味を持

って取り組んでいます。難しいのは人を相手にする仕事ですね。普段は対等な関係でも、いざ捜査では相手が被疑者になることもありますから、そういう時のやりとりでは自分の気持ちとは別に仕事として切り替えなければなりません。元々人と話すのが好きなので、そういう意味では逆に少し辛いと感じる面もありますが、やはりこれからも刑事の道に進みたいと考えています。外国船に対する取り締まりなど、国民の安全を守っていきたいですね」

洋上の立入検査では船舶検査手帳、船舶検査票、漁船であれば漁船登録証、さらに救命関係の備品を確認。



トル、26トンの小型巡視艇（C L）で、平成19年竣工の新しい船だ。

「ライトメールも装備していますし、空調が2機あるので夏場は助かります。また、何よりも従来の先代「とさくさ」と比べて速度が上がっているのが現場

に早く到着できるのは心強いですね」と説明するのは浅井克紀船長だ。さらに「とさくさ」はトイレを含めた生活区画が二分されており、女性海上保安官も勤務できる設計になっている。

「とさくさ」によるしよ戒に加え、陸行により島内を巡視している。佐渡島内には34の漁港があり、これは実に新潟県内の漁港のほぼ半数になるが、それ以外にも海岸に斜めのコンクリートを打っただけの船揚場も多く、こういった港や船揚場を回るには車が有効な移動手段となるからだ。

「各集落ごとに小さな船揚場がたくさんありますが、そういう所の船はたいがい小さいものです。最近が高齢化が進んでいて、立入検査した相手が皆さん60歳以上という日もありますし、いちばん高齢では90歳以上の方もいますから、必ず

声を掛けるように努めています。私は佐渡は2回目の勤務ですが、以前と比べてライフジャケットの着用率は確実に上がっています。これは安全指導や取り締まりの成果でしよう」

佐渡には「磯ねぎ」と呼ばれる独特の漁法があり、有名なたらい舟もそのための道具。小さな船やたらい舟で磯場に出て、箱メガネで海中を見ながら長い棒でサザエやアワビを獲る漁法だ。高齢でもひとりでも漁に出られるのはメリットもあるが、海中を覗いて漁に集中していると周囲に気が回らなくなるため、衝突や転落といった事故に繋がりがかねないという。

「シーカヤックで島を回っている人たちにも、磯ねぎの方がいるので注意するよう呼びかけています。どちらも視線が低いので気づきにくいですから」と浅井船長。毎日同じ場所を回りながらちよとした変化に気を配りコミュニケーションを取る。地道な作業の繰り返しですが、事故を未然に防ぐことに繋がっている。

洋上での哨戒では、普段の陸行ではあまり声を掛けることができない船に対して立入検査を行い、救命関係の備品や書類の不備などをチェックしている。また岸から4海里以内と定められている刺網漁の漁船が、ときとしてそれを超えたり、ぎりぎりのポイントで操業していることも。「数100メートルの違いですので漁師の思い込みだと思えますが、少しでもぎりぎりのラインで操業したい気持ちも分かる気がします」と浅井船長。水産大学出身、さらに漁船に乗っていた経験もあ

るだけに、漁師の気持ちや行動も理解できるのだろう。

幅広い業務を身につけ成長

浅井船長はまた、日頃の哨戒で目にする様々な漁法について若い署員に説明することを欠かさないといい。漁法を知ること、操業中の船への接近の仕方や立入検査のタイミングなどを理解させるためだ。

地域を知り、漁師を知り、島の安全を守る。限られた人員で島全体に目を行き届かせていくには地元との連携を欠かすことはできない。密漁についても「怪しい動きをしている人がいる」という地元漁業者からの通報によって検挙に繋がることが多い。島内を回り、日々漁業者と顔を合わせてコミュニケーションを取ることが、事故を未然に防ぎ、犯罪を減らすことに繋がるだろう。



佐渡島の北東端に位置する二ツ亀周辺を哨戒する「とさくさ」。

増えている若い仲間の中でリーダーシップを発揮していきたい



巡視艇「とさくさ」航海士補 小林 利光(24歳)

「人を助けたり安全を守る仕事を探していたところ、先輩が海上保安官になり、憧れもあってこの仕事に就きました。現在は佐渡沿岸の取り締まりや、事案が発生すれば救助や調査をしています。佐渡は地域との繋がりが強く、日頃から安全講習や救命講習など、地元の人とも仲良くさせてもらっています。取り締まりの業務は慣れないうちは大変でした。船の事故にしても書類の不備にしても、『取り締まるぞ!』というよりも『ちゃんとしてくださいね』という気持ちを込めて接するようにしています。

今後、色々な仕事の経験を積んでいきたいと思います。今はまず配属されたところの仕事をしっかりとやって経験を積んでいければと思っています。そこから進みたい道が決まるとして必死にやっている状況です。

今は若い人がたくさん入庁しているので、そういう中でもリーダーシップを発揮していきたい。これから入ってくる人も色々不安はあるでしょうが、海上保安庁は入ってから進むべき道が見えてくる職場だと思います。それを後輩に伝えていきたいと思っています」



今年、佐渡海上保安署は商工会からの要請に応じて、若手職員が地元祭りの神輿を担いだ。またブースを出して海の安全について市民に説明したり、水泳教室を開くなど、地域と密着した啓発活動を行っている。職員ひとりひとりが地域と繋がり、多彩な業務に携わるといふ、小さな保安署ならではの活動と言えるだろう。

「ここで積んだ経験を次の現場にも生かして欲しい。佐渡で鍛えられ、どこに行っても通用する海上保安官として成長して欲しい」という北原署長の言葉に、島への思いと後輩への期待がこめられている。



佐渡と言えばこのたらい舟。浅い磯場で行う磯ねぎ漁で活躍する。左のようなボートで行うことも。

取り締まった相手の「気をつけます」という言葉に、安心とやりがいを感じます



巡視艇 きくさ 航海士補 皆川 尊信(27歳)

「佐渡に来る前は新潟の巡視船『のと』に乗っていました。あの時は大型船だったので沖に出て船内で業務をこなしていましたが、こちらでは地域のお祭りなどでブースを出し、海の安全についてお話したりして地域の方々との関わりを持てるようになったと感じています。大きい船、小さい船、それぞれに発見もありますし、充実した仕事が出てきていると感じています。

大変だったのは昨年冬場に、両津湾に設置してある定置網が壊れているとの通報があったときです。立ち会っている漁業者の方々の安全にも気を

配りながら捜査しなければならず、長時間の海上業務となり寒さが耐えました。

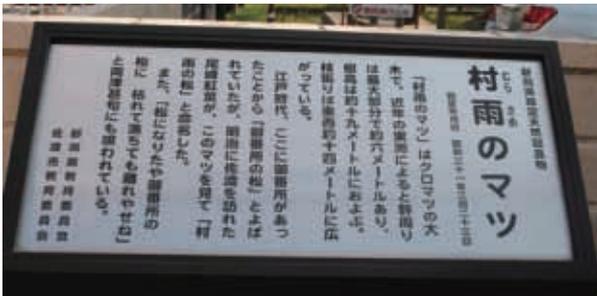
今は警備業務にやりがいを感じています。取締りによって違反が是正されることが海の安全を守っているという実感が湧きます。佐渡はお年寄りの漁業者が多いので、免許などの期限を忘れていないか気になり声を掛けていますが、そのような時「気をつけて海に出ます」と言ってくれるとこちらも安心できます。



佐渡島 エトセトラ

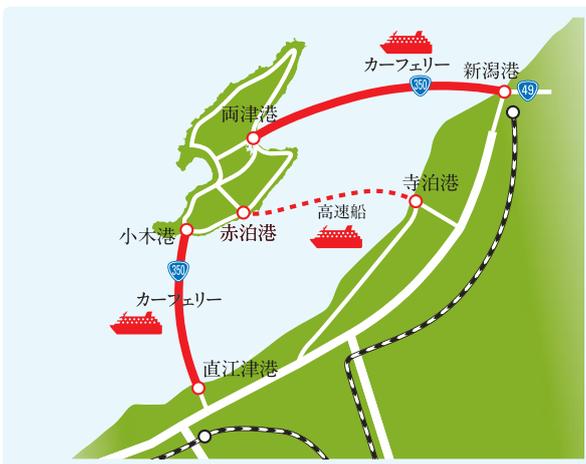
特集では伝えきれなかった佐渡島をここで

● 村雨の松



佐 渡海上保安署敷地内にそびえる黒松で、高さ約19メートル、幹の周囲6メートルという見事な佇まいを見せる。推定樹齢300年以上、新潟県の天然記念物に指定されている。「御番所の松」とも呼ばれ、「松になりたや御番所の松に枯れて落ちても離れやせぬ」と両津甚句に歌われるなど、両津を象徴する存在だ。樹齢を重ね、一部が枯れかけた時期もあったが、専門家を招いての処置もあって現在は青々とした葉を見せている。

これは トリビア!



佐渡島内唯一の国道といえば、両津港と小木港を結ぶ国道350号線だ。だがこの国道350号線、両津港—新潟港および小木港—直江津港を結ぶフェリー区間も、実は海上国道と呼ばれる国道350号線なのだ。両航路でフェリーを運航する佐渡汽船のフェリー船内には、国道航路350号と書かれたパネルが設置されている。



ブリかつ丼

佐渡島を代表するB級グルメが「佐渡天然ブリカツ丼」だ。天然のブリを地場産米粉を使った衣で揚げ、特性あごだし醤油タレをくぐらせて、丼を持った佐渡島産ご飯の上に乗せれば出来上がり！天然のブリを使うことはもちろん、上に乗せるブリカツは5切れ、タレやお米も指定されるなど、厳しい条件をクリアして生まれるホッと熱々な味をご賞味あれ。

● ニツ亀と大野亀



ニツ亀



大野亀

佐 渡島の北東端、弾崎（はじきさき）の近くにある大岩、二匹の亀が海上にうずくまったように見えるニツ亀は、日本の海水浴場100選にも選ばれている。大野亀は高さ167メートルの切り立つ一枚岩。日本海の荒波から生まれた雄大な景観の外海府*を一望できるロケーションで人気だ。 ※外海府：佐渡の北側の海岸のこと

● あいぼーと佐渡



佐 渡島の表玄関である両津港から徒歩5分の位置に、今年3月にオープンした佐渡島のインフォメーションセンター。約280名を収容できる多目的ホールを中心に、絵画展や市民大学講座、映画上映会などさまざまなイベントが開催されている。

● 宿根木集落

江 戸寛文期（1661～1678年）に回船業の集落として栄えた宿根木集落は、「千石船と船大工の里」だ。狭い入江に家屋が密集する町並みと石畳の露地など、今でも往時の面影を残す。建造物のほとんどは2階建てで、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。



● 高速カーフェリー



本 土と佐渡島を結ぶカーフェリーは、両津—新潟間と小木—直江津間、寺泊—赤泊間の3航路で運航されている。今年4月、小木—直江津間に就航した「あかね」は双胴型の高速カーフェリー。ディーゼルエンジン4基とウォータージェット4基を搭載し、最大速度30ノットで従来よりも所要時間を60分短縮した。

● たらい舟



佐 渡島の風物詩といえたらい舟。島南西の小木海岸では今でも地元漁師がたらい舟で磯ねぎ漁を行っている。もちろん観光でも大活躍。誰でも気軽にたらい舟体験を行うことができる。

NEWS FLASH



ミス日本「海の日」による表敬訪問

7月1日 本庁



ゆう活取材もにこやかに!?

7月1日 第四管区海上保安本部



**田辺第二小学校2年生
船内見学へ**

6月19日 田辺海上保安部



海保のPRオンエア

7月7日 徳島海上保安部



**オリジナル
学生募集Tシャツを作成**

7月5日 第八管区海上保安本部



アメリカ海軍士官学校士官候補生が来日!

7月2日 第七管区海上保安本部・
関門海峡海上交通センター



「江ノ電」での海の安全運動

7月10日から9月6日 湘南海上保安署



マツダスタジアムにおける夏季安全啓発活動

7月7日 第六管区海上保安本部



**海上保安メッセージ
「むつごろうだより」を
発刊**

7月10日 三池海上保安部





「海の月間」巡視船ちとせ一般公開!
7月18日 留萌海上保安部



**ご当地アイドルとコラボした海難防止で
復旧・復興を後押し!**
7月16日 福島海上保安部



**塩竈みなと祭り陸上パレードに参加!!!
~若い力で一致団結~**
7月20日 第二管区海上保安本部



**多良間島民等の交流
~2015 海の日ハーリー大会in多良間~**
7月19日 宮古島海上保安署



**NHK「おはよう北海道」えりも船上から生放送!!
~訓練展示で海難防止をPR~**
7月22日 釧路海上保安部



野外調理実習を実施 7月21日 海上保安学校



**第22回広島みなと祭
カッターレース大会に参加**
7月25日 海上保安大学校



水上安全教室を開催
6月25日から7月14日 鹿児島航空基地



**機動救難士と新潟市消防局との
合同潜水訓練**
7月22日 新潟航空基地



Japan Coast Guard Band

海上保安庁音楽隊 第22回定期演奏会



平成27年11月16日(月)
午後6時30分開演(午後5時30分開場)

文京シビックホール・大ホール

東京都文京区春日1-16-21

■東京メトロ丸ノ内線・南北線 後楽園駅直結

■都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅直結

■JR中央・総武線水道橋駅 徒歩約10分

※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。



指揮

稲垣 征夫 (海上保安庁音楽隊技術顧問)

演奏予定曲

- ・行進曲「ボーイスカウト・オブ・アメリカ」
- ・梁塵秘抄～熊野古道の幻想
- ・ラブソング・イン・ブルー(ポップス版) ほか

■ 申込み方法

はがき、インターネットのいずれかでお申し込みください。

はがき応募 メ切：10月9日(金)

郵便はがき裏面に代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、応募のきっかけ及び同伴者(希望する場合1名のみ)の氏名、年齢を記入の上、右の要領でお申し込みください。

インターネット応募 メ切：10月9日(金)午後6時

海上保安庁ホームページからご応募ください。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/teien/>

- ・本演奏会は入場無料ですが、入場整理券(全席指定)が必要です。
- ・応募はお一人様1通のみ(代表者を含めて2名まで申し込み可能)とさせていただきます。複数応募は無効とさせていただきます。
- ・未就学児童のご来場・ご着席は、他のお客様のご迷惑となる場合がありますので、お断りいたします。
- ・記載事項に記入漏れがある場合は、無効となりますのでご注意ください。
- ・応募者多数の場合は抽選とし、入場整理券(全席指定)の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。

(公財)日本海事センター補助事業 後援/(公財)海上保安協会 ■お問い合わせ先/海上保安庁政策評価広報室 03-3591-6361 (平日午前9時30分から午後6時まで)

(おもて)

郵便はがき
100 8976
定期演奏会係

東京都千代田区霞が関2-1-3
海上保安庁 政策評価広報室

(うら)

※必ずご記入ください。

・郵便番号
・住所
・氏名(代表者)
・年齢
・電話番号
・応募のきっかけ
(例：ホームページ、○○新聞等)
※以下は、同伴者を希望する場合のみご記入ください。
・氏名(同伴者・1名)
・年齢

※往復はがきでは
ありませんので、
ご注意ください。

※個人情報の
取扱について

応募の際にご記入
いただいた個人情
報は、本演奏会の
公募事務及び入場
整理券の発送のみ
に使用いたします。

応募はがき記入方法